

平成29年度

# 入学試験国語問題

## 注

- 解答はすべて解答用紙に記入すること。
- 問題用紙は持ち出さないこと。
- 字数制限のあるものは、原則として句読点、記号も一字に数えます（指示のあるものは除く）。

【一】 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

たいていの人が、散文<sup>①</sup>より韻文、詩歌の方が高級であると思っている。普通の文章、散文はだれにも書けるが、詩をつくるのは特別の能力が必要であるように思っている。

さらに、詩の文が散文より書くのに難しいときめてしまっている。

日本文学は平安期にはすぐれた散文作者が生まれていて、ほかの国の文学史と比べると、i 目ざましい。

一般には『源氏物語』<sup>②</sup>が評価されるが、文章でいえば『枕草子』<sup>③</sup>がケツ<sup>A</sup>出している。あれほどみごとな散文が千年も前に書かれたことはおどろくべきことで、ヨーロッパの諸国は詩しか残っていない。a、平安期には女性の書き手が何人もいるのだからおどろく。

ヨーロッパで女性が文学作品を書くようになるのは、十八世紀になってからである。男性だって、まっとうな文章を書くようになるのは、やはりたいへんおくられている。

シェイクスピアは、十六世紀から十七世紀にかけてすぐれた作品を書いた。イギリス人は世界一だと考えている。

(1)

そのシェイクスピアの書いた初期の作品には、散文はほとんどない。作者としての腕が上がるにつれて、すこしずつだが、散文があらわれるが、いかにもたどたどしい文章である。<sup>④</sup>天馬空を往く観のある韻文とは比べものにならない。

早い時期と思われる作品には、さきへのべたようにほとんど散文があらわれない。出てくるものは稚拙であるといつてよいものである。b、もつとも後に書かれたと考えられる『あらし』(テンペスト)には相当な量の散文のせりふが見られ、その

散文も、初期の散文に比べて、ずっと洗練されているのである。

(2)

シェイクスピアは、年とともに散文の腕が上がっていったらしいと考えられた。

言いかえると、シェイクスピアの時代には英詩の技術は高度に洗練されていたのに対して、散文はまだ確立していなかったということになる。シェイクスピアは一五六四年生まれ、一六一六年没、日本で言うところ徳川家康とほぼ同時代の人であったとしてもよい。英語の散文はそれくらいおいていたが、<sup>⑥</sup>それが問題にされることもなかった。

そこへしつかりした英語散文を確立しないといけないという<sup>\*</sup>建議をした人たちがいた。もちろん詩人や文人ではなく、科学の研究者たちである。王立アカデミーのメンバーたちが、理性的表現、明快で論理的表現を求める<sup>B</sup>テイ言をして世人をおどろかせた。

そういう、事実をのべるのに適した英語が整備されるにつれて、科学などの新しい研究が生まれるようになったのだと言われる。

(3)

このことが、日本人の知的活動に大きな障害になった。なにごとによらず<sup>C</sup>外国毛倣、「知識を広く世界に求め」<sup>※</sup>を<sup>※</sup>国是としてきた近代日本人の思考に大きな影響を及ぼしたと思われる。

ことばは発生的には主観的である。相手に伝えたいメッセージをはっきりしなくても、はじめのことばは存在しうる。

へうたう〜ことばである。

ii

言語は、そのはじめは、へうたう〜ことばである。コミュニケーションが意識されると、客観的にならざるを得ない。

「であろう」はへうたう〜ことばの系列にあるが、「である」はへのべる〜、へ語る〜、へ伝える〜ことばである。

さきへのべたいイギリスの王立協会による<sup>⑦</sup>言語改革運動は、このへ語る〜、へ論ずる〜ことばの必要を要求するものであった。

(4)

それがその通りになったわけではなく、現代英語についても、へうたう〜要素が思考を妨げているという<sup>D</sup>指<sup>D</sup>テキが消えているわけではない。

へうたう〜のは

I

が適しているし、へ考え〜、へ伝える〜には

II

が必要である。

日本語は、形式的には、

III

がよく発進しているようでありながら、その実、へうたう〜要素をかなり多く残存させてい

る。十分に

IV

的になっていないのである。

日本語は、散文の浸透についての関心をあまりはつきりさせない。

日本人の思考が、外国から特イ<sup>E</sup>であるように見られるのも、思考をあらわす散文が未発達で、半分、へうたうへようなことばでロジックをあらわそうとした結果である。

散文を書くのは、詩歌をつくるよりも難しいかもしれないということを、iii 認識することが必要である。すくなくとも、詩歌の方が、散文よりも、本質的にすぐれているというのは疑問である。という考えが必要であろう。

(5)

美しいもの、美しいことは、へうたうへことができるが、正しい、おもしろいことは、へうたうへことばではとらえられにくい。へうたうへことばで文学は栄えるが、新しいこと、新しいものを生むには、ものごとをあるがままにとらえる客観性の高い言語が必要である。そういう考えが広く認められるようにならないと、活力のある文化は生まれにくい。

さしずめ、日本語散文の確立が求められる。

それは、「であろう」を廃して「である」にする、といったことくらいでは解決しない。主観と客観の問題をうまく解決できなければ、X。

(「消えるコトバ・消えないコトバ」外山滋比古の文章による)

〔語注〕

※ 建議…意見を申し立てること      ※ 国是…国家としての方針      ※ ロジック…論理 論法

問一 次の一文を本文中の(1)～(5)のどの箇所に入れるのが適当ですか。番号で答えなさい。

わが国には、これに当たる文体革命はなかったから、いつまでも詩的言語が論理的になるといこともなかった。

問二 傍線部A～Eのカタカナを漢字で表記したとき、同じ漢字を使うものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A ケツ出

- ア ケツ意を新たに  
イ 思わぬケツ果に  
ウ ケツ員を補充す  
エ 清ケツな服装を心  
オ ダヴィンチの最高ケツ作

B テイ言

- ア テイ裁をとりつくろ  
イ 前テイ条件を整理  
ウ 悪事が露テイする  
エ 町を守る防波テイ  
オ テイ重にお断りする

C モ倣

- ア 酵ボ菌の働き  
イ モ寄り駅まで案内  
ウ バク然とした不安  
エ 規ボの大小は問わ  
オ 雑草が繁モする

D 指テキ

- ア 手術で患部をテキ出  
イ 教室をテキ温に保  
ウ 点テキ石をもうが  
エ 油断大テキ  
オ テキ確な情勢判断

E 特イ

- ア 難イ度が高い技  
イ 任イの取り調べに  
ウ イ国情緒漂う神戸  
エ 会議のイ任状を送  
オ イ法駐車を取り締

問三 傍線部①「散文より韻文」のように対義語の関係にあるひとまとまりの表現を本文中から抜き出して答えなさい。

問四 傍線部②「源氏物語」、③「枕草子」の作者を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 和泉式部      イ 紀貫之      ウ 清少納言      エ 兼好法師      オ 紫式部

問五 傍線部④「天馬空を往く」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 荒々しく猛々しい      イ 恐れおののく      ウ のどかで落ち着いた  
エ 自由に奔放な      オ 正確で間違いのない

問六 空欄 i、ii、iii に入る適当な語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア すべて      イ まことに      ウ しつかり      エ おそらく      オ まるで

問七 空欄 a、b に入る適当な語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア だから      イ ところが      ウ したがって      エ なぜなら      オ しかも

問八 傍線部⑤「初期の散文」を筆者はどのように評価していますか。本文中から漢字二字の熟語で抜き出して答えなさい。

問九 傍線部⑥「それ」の指す内容を本文中の語句を使って二十五字以内で答えなさい。

問十 傍線部⑦「言語改革運動」の説明として適当な部分を解答欄に合うように本文中から十五字以内で抜き出して答えなさい。

問十一 空欄  I  IV には「散文」または「韻文」のいずれかが入ります。その組合せとして最も適当なものを次

の中から選び、記号で答えなさい。

- |   |      |       |        |       |   |      |       |        |       |
|---|------|-------|--------|-------|---|------|-------|--------|-------|
| ア | I 散文 | II 韻文 | III 散文 | IV 散文 | イ | I 散文 | II 韻文 | III 韻文 | IV 韻文 |
| ウ | I 韻文 | II 散文 | III 韻文 | IV 韻文 | エ | I 韻文 | II 散文 | III 散文 | IV 韻文 |
| オ | I 韻文 | II 散文 | III 散文 | IV 散文 |   |      |       |        |       |

問十二 空欄  X に入る表現として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 文学が栄えることはないだろう
- イ 日本語の力は失われていくかもしれない
- ウ 英語表現は崩壊するかもしれない
- エ すぐれた詩歌が生まれなくなるかもしれない
- オ 日本語は世界共通語とならないであろう

【二】 次の古文を読み、後の問いに答えなさい。

これも今は昔、奈良に、藏人得業惠印といふ僧ありけり。鼻大きにて、赤かりければ、「大鼻の藏人得業」といひけるを、後ざまには、ことながしとて、「鼻藏人」とぞいひける。なほ後々には、「鼻藏鼻藏」とのみいひけり。

それが若かりける時に、猿沢の池の端に、「その月のその日、この池より龍登らんずるなり」といふ札を立てけるを、往來の者、若き老いたる、さるべき人々、「ゆかしき事かな」と、ささめき合ひたり。この鼻藏人、「をかしき事かな。我がしたる事を、人々騒ぎ合ひたり。をこの事かな」と、心中にをかしく思へども、すかしふせんとて、空知らずして過ぎ行く程に、その月になりぬ。大方大和、河内、和泉、摂津国の者まで聞き伝へて、集ひ合ひたり。惠印、「いかにかくは集る。何かあらんやうのあるにこそ。怪しき事かな」と思へども、さりげなくて過ぎ行く程に、すでにその日になりぬれば、道もさり敢へず、ひしめき集る。

その時になりて、この惠印思ふやう、ただごとにもあらじ。我がしたる事なれども、やうのあるにこそと思ひければ、「この事さもあらんずらん。行きて見ん」と思ひて、頭つつみて行く。大方近う寄りつくべきにもあらず。興福寺の南大門の壇の上に登り立ちて、今や龍の登るか登るか待たれども、何の登らんぞ。日も入りぬ。

〔語注〕

- |                       |                 |                 |
|-----------------------|-----------------|-----------------|
| ※ 猿沢の池…現在の奈良市興福寺の南側の池 | ※ 登らんずるなり…登るだろう | ※ さるべき人々…分別ある人々 |
| ※ ゆかしき…見たい            | ※ をこの事…愚かなこと    | ※ すかしふせん…黙ってしよう |
| ※ 道もさり敢へず…道ですれ違えないほど  | ※ やうのある…わけがある   |                 |



問一 文中の「いひける」を現代仮名遣いに改めなさい。また、次にあげたそれぞれの傍線部の語についても現代仮名遣いに改めなさい。

1. 人のごゑしけり
2. よろづの遊びをぞしけり
3. たふとき聖の御文なり
4. 宮に初めてまるりたるころ
5. いとうつくしう咲きたり

問二 二重傍線部 a、e の中で一つだけ主語の異なるものがあります。その記号を答えなさい。

問三 傍線部①「その日」とはいつのことですか。分かりやすく十五字以内で説明しなさい。

問四 傍線部②「この事さもあらんずらん」の内容を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 恐ろしいことが起こる前兆かもしれない。
- イ 人がおおぜい集まっているのはおもしろそうだ。
- ウ 人のすることはほんとうにわからないものだ。
- エ このことはとんでもないばか騒ぎかもしれない。
- オ ひよっとするとほんとうに龍が登るかもしれない。

問五 恵印の期待感が表れているところを本文中から十字で抜き出して答えなさい。

問六 この話で作者はどのようなことを伝えたいと考えられますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア いつの時代も人々は荒唐無稽な話に惑わされ、大切な信仰心を忘れるという戒め。

イ うそつきはいつの時代にもいるものであり、きつと天罰が下されるといおしえ。

ウ 奈良の有名なお寺にとんでもないいたずらをした者がいて、信仰の場をけがしたということ。

エ 自分でついたうそに、自分でひつかかるような愚かな僧もいるものだということ。

オ 好奇心旺盛な人々と、それをからかう僧との掛け合いのうまさ。

問七 この古文は「宇治拾遺物語」という説話集に収められています。同じジャンルの作品を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 伊勢物語

イ 平家物語

ウ 今昔物語集

エ 沙石集

オ 竹取物語

【二】 次の文を読み、後の問いに答えなさい。

① 二人の友人関係を現わす言い方として、「犬猿けんえんの仲」「 $a$ 」と「 $b$ 」の間柄あいだがら」「仲が悪い」の三つがあるとします。

前二つと「仲が悪い」という言い方は同じ意味合いで使われていますが、私たちの情緒に与える影響力という点では、決して同じとは言えません。仮に、「犬猿の仲」と評された二人が、その言葉を耳にしたら「おれは犬でも猿でもないぞ」と怒るにちがいません。「 $a$ 」と「 $b$ 」の比喩でしたら、怒りはしないでしようが、「おれは（ $a$ ）」と「（ $b$ ）」のどちらかな？～ぐらいのことは考えるでしょう。また、仲の悪い当の二人の内のいずれかが、自分たちの間柄を「犬猿」とは、おそらく言わないでしょう。そう言った当人が犬か猿かのどちらかになるからです。「犬猿の仲」を当人がシニカル\*に認める場合は別です。これらの例は、私たちが言葉の持つ像を鋭敏に感じとっていることを示します。

一般に、ある事柄を強く感性に訴えるように表現する場合、言葉の像を（無意識のうちに）活用するようです。

では「仲が悪い」という表現の中に像はないのでしょうか。人によっては、視線を合わせない二人の表情などを思い浮かべたりもできるでしょうから、まったく像がないとは言いませんが、この表現は、どちらかと言えば、話者が特別な感情をこめずに、理性的に、ある二人の間柄を述べたものと言えます。犬と猿、（ $a$ ）」と「（ $b$ ）」という比喩表現に比べれば理性的で客観的な叙述と言えるでしょう。もう一つのほうは、「情緒喚起」的で主観的です。

さて、私は、人の感性に訴える場合に言葉の像を使うようだと述べましたが、それが無意識むいしぎのうちに行なわれることを、カッコ付きで加えました。その理由は、人が、言葉の像につねに鋭敏であるとは限らないという例にも、よく出会うからです。

ある会社の重役さんの随想を、社内誌で読んだことがあります。その中に「私は小鳩のような胸をふくらませて返事を待った」という表現があつて、ギョツ②としました。「私」は、文章の前後関係から見て、その随想の筆者その人のことで、推定年齢、六〇歳に近いお方です。仮にこれが少年時に自分を置いての回想叙述ならば可憐かれんですが、その文章は近況に関するものでした。大の男だけに「小鳩」は不似合いでしよう。当人はしゃれたつもりだったのでしようが、言葉の像の活用術としては、（1）」といっ

たところす。

これは主情的になりすぎたこと、言葉の像についての意識の不足を示しています。理性的に述べたほうがいいときに主情的に述べてしまつて、しばしば、こういふ（1）をしてしまふ失敗は、私にもあります。

「詩」といふつもりで書かれている表現にもこの種の混乱が見られます（とくに比喩表現に）。たとえば「蜘蛛の糸にも似た黒髪」といふのはどうでしょう。またへしなやかに舞うその姿は、青竹にも似て透明」といふのはどうでしょうか。これらは、像が助け合つていなくて、むしろ混乱し分裂しています。

詩でも、普通の文章でも、巧みなものは、理性的に述べることに主情的に述べるべきことを、よく区別しているようです。

（「詩の楽しみ」 吉野 弘による）

〔語注〕

※ シニカル：皮肉

問一 傍線部①「二人の友人関係を現わす言い方」として文中に三例あがっています。次の問いに答えなさい。

1 (a) (b) に当てはまる漢字をそれぞれ一字ずつ答えなさい。

2 この三例と明らかに反対の意味のものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 三顧の礼      イ 水魚の交わり      ウ 魚心あれば水心      エ 朱に交われば赤くなる      オ 断琴の交わり

問一 傍線部②「ギョッとしました」は「小鳩のような胸」という表現への筆者の違和感を示していますが、私たちも日常の中で時として不適切な語の使い方をしていることがあります。次の傍線部の語の使い方方で適切なものにはA、不適切なものにはBとして、それぞれ記号で答えなさい。

ア つまらないことを言って彼の琴線に触れてしまった。

イ わたしとしては君と事を構えるつもりはない。

ウ この仕事は君の業績のすばらしさからは少々役不足かもしれない。

エ 一生懸命働いたので、私の手にはあぶく銭が入ってきた。

オ こちらの提案に相手は満面色を成して賛成してくれた。

問三 空欄（ 1 ）に文意から考えて入る最も適当な語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 馬脚をあらわす      イ 勇み足      ウ 手も足も出ない      エ 一足違い      オ 二の足を踏む

問四 傍線部③「黒髪」の部分について次の問いに答えなさい。

1 「つやのある『黒髪』」を色でたとえることもあります。何色で表しますか。漢字で答えなさい。

2 「黒髪」をたとえるのに鳥の名を使って次のように表すこともあります。空欄に入る語を答えなさい。(ひらがな可)

( ) の濡れ羽色

3 次の表現の空欄に入る色を漢字一字で答えなさい。また、後の意味群から適切な意味を選び、それぞれ記号で答えなさい。

① ( ) 天のへきれき

② ( ) 眉

③ 一面の ( ) 世界

④ ( ) の他人

⑤ ( ) 字塔

〔意味群〕

ア 困り切ったようす

イ 突然起こる大事件

ウ 優れた業績

エ 雪で覆われた景色

オ 全く関わりのない人

カ 優れた人物

キ しかめっ面をする

ク 知名度が上がる

ケ 年老いた人物

コ 幻想的な情景